

令和元年度第 10 回 熊谷市総合戦略有識者会議議事録	
日時・会場	令和 2 年 1 月 17 日（金）10:00～ 熊谷市役所議会棟 2 階 第 4 委員会室
次第	1. 開会 2. 議題 (1) 第 1 期総合戦略の取組状況について（資料 1） (2) 第 2 期熊谷市人口ビジョン・総合戦略について（資料 2） (3) 今後の予定について 3. 閉会
資料	【資料 1】 熊谷市総合戦略の基本目標別の KPI 【資料 2】 第 2 期熊谷市人口ビジョン・総合戦略（案） 【その他】 熊谷市総合戦略策定スケジュール（後期） 第 2 期熊谷市人口ビジョン・総合戦略（案）にかかる意見
議事録	
委員長	(1) 第 1 期総合戦略の取組状況について（資料 1） ・事務局より資料に基づいて説明が行われた。 ・意見・質問は以下の通り。 令和元年度の KPI はまだ出ていないため、掲載されている KPI の数字は前回の会議と変わっていない。全体的に見ると、基本目標 2 の転入・定住促進、そして出産・子育てについては十分に効果が出ていないと思われる。人口動態については、年によって社会動態の増減はあるが、やや持ち直してきた状況である。
委員長	(2) 第 2 期熊谷市人口ビジョン・総合戦略について（資料 2） ・事務局より資料に基づいて説明が行われた。 ・意見・質問は以下の通り。 計画の表題にあるように、中身の構成として、1 つは将来の人口ビジョン・人口推計、当面 5 年間の施策を総合戦略としてまとめているが、これは第 1 期と同じである。特に施策の部分については、より人口増を図るための施策に厚みをつけている。第 1 期と大きく違うのは、RESAS のような経済分析等を行ったり、どの年代が減っているのか、人口動態を細かく分析している。はじめに前半の人口ビジョンについて、内容確認や質問があればお願いしたい。
委員	P61 (2) 将来人口のシミュレーションではパターン⑤までであるが、パターン⑥があってもいいのではないかと。人口が減っていることが前提の中で、新たに全く違ったスマートシティや AI 等の新しい技術を使った政策の中で、転入促進をする等、パターン⑥で人口を増やす目標を立てていただきたい。
事務局	パターン⑤は転入される方を想定したものの推計なので、それを受けて P82 2-3-2 を入れている。第 1 期はもっと多かったもので、ある程度加味して推定を出している。

委員	UDC が絡んだ場合に、10 年で 2 万人の人口増が想定がされる。このように少なくとも 10 年で 1 万や 2 万人の人口を増やすという目標を作らなければスマートシティをやる意味がない。
事務局	5 年から 6 年のスパンなので、5 年後の時点で反映させていただきたいと考えている。
委員	令和 42 年までシミュレーションがあるので、増える可能性もあるということを入れた方が励みになるのではないか。
委員長	パターン②は、転入の促進として増加を見込む推計だと思う、この部分は毎年改定しないのか。
事務局	5 年ごとである。
委員長	上手くスマートシティを軌道に乗せて、意識しながら今後も続けていかなければならない。
委員	別府にミサワホームが建てた約 70 棟がほぼ完売状況であるという話を聞いた。環境が整っており、私の子ども達も別府小学校と別府中学校の卒業生だが、子ども達が在籍していた頃は 2 クラスで、現在中学校 2 年生のクラスは 1 クラスになってしまったが、今年度クラスが増えて、今年度の入学生も 3 クラス編成が見込まれている。ミサワホームの入居者が子どもを産み育てて、その子ども達が育って幼稚園を経て小学校・中学校に入る段階である。籠原駅も利用が増え、今後の人口増にも繋がるので、そういう場所がもっと増えるためにも場所の確保が必要である。
委員長	市も完売の報告を受けている。その影響もあり、別府小学校の学童クラブも足りなくなり、現在は別府小学校の中に学童クラブを新設している。
委員	別府の件は、熊谷市が積極的にミサワホームに働きかけたのか。
事務局	元々別府の区画整理の中で、当初は小学校の用地として売り出した市有地だったが、学校建設の基準が変更になり、小学校を作るには面積的に難しくなってしまった。その土地をどうするか市の内部で検討する中で、「籠原駅への近さ等を加味し、住宅地として熊谷市の暑さを逆手に取り、暑い町でも涼しく住めるような環境配慮型の住宅を作ってもらいたい」という提案で業者を募った中の 1 つがミサワホームだった。複数の業者がいたが、最終的に市でミサワホームに提携を委託した。
委員	基本的にこのような計画を立てる時には、自助努力でなんとかなる範囲のものがいいと思っている。ミサワホームの話は、市として積極的に動いていないのであれば、住宅完売というのは結果論であると思う。この結果をベースにしてパターン⑥を作るのは背伸びし過ぎではないかと感じている。
委員	熊谷市が暑いということは全国に知られているが、災害に強いということは知られていないと思う。千葉は人気がある地域であるが、今回の台風の影響を大きく受けている。熊谷市が災害に強いこと、自衛隊があるということは最大の魅力であり、戦略の中にデータをふまえてアピールしていただきたい。
委員	災害に強いのではなく、たまたま今まで災害がなかったということではないか。確かに全国的に見ると自然災害は少ないが、昨今の集中豪雨や異常気象を見ると、

	決して将来安泰ではない。先を考えると、自然災害は起きない、水害は起きないということのをうたい文句にして人口誘致をすると、自分で自分の首を絞めることになりかねないのではないか。
委員	自衛隊は活動出来るようにしていただきたい。
事務局	取り組みの中でも意識しており、P77 の中段に「熊谷市国土強靱化地域計画」として、基盤整理を意識した取り組みをしていくことをうたっている。具体的には、P79 2-1-11：災害に強いまちづくりの推進をあげている。スマートシティの中でも暮らしやすさの向上の部分で安心・安全は必要だと考えている。
委員長	自衛隊と応援協定のようなものが結べないかということで、危機管理室で折衝していたが、自衛隊は高度な部分の任務を負っているので、一自治体と応援協定を交わすことは出来ないようである。しかしながら、いざという時には一番頼りになると考えている。台風 19 号の時もいち早く動いていただいたので、熊谷に基地があるということは強みとしていきたい。
委員	人口施策を検討する段階で、年齢階層別の人口推移をお示しいただけると、実際に立てた施策がどこの層の人口増加に効果的なのかがわかりやすいと思う。ご検討いただきたい。
委員長	今回の資料の中に盛り込まれていないか。意見として検討していただきたい。
委員	BCP を作らないと、持続可能な企業とはなりにくい。熊谷市では平成 16 年にマスタープランを作り、それが改訂の時期に来ていると思う。熊谷市は将来どうあるべきか、都市づくりのマスタープランをしっかりと作りそこに人口ビジョンを反映させないと、総合振興計画の理解を失うのではないか。大事な時期なので、それをふまえて議論をしていただきたい。
委員長	熊谷市の都市マスタープランは合併前に作成したもので、現在検討しているところだが、人口減の中で都市部に集中させるコンパクトシティの考え方の「立地適正化計画」を考えており、オーバーラップしている部分もあるので、来年度あたりから策定に入ろうと考えている。
委員	それであれば、人口ビジョン・総合戦略は大事な話なので、具体的にお示し出来るようにしていただきたい。
委員長	全体を通して意見がある方はお願いします。
委員	P1 の下から 5 行目「・・本市の特性を生かし・・」という文言があるが、「本市の特性」とは何を指しているのか。第 2 部の中でどのように反映されているのか。
事務局	本市の特性としては、国の検証から、子育て世代の転出が多いと出ているので、その抑制をするということである。今までの施策はもちろんだが、新たに給食費の無償化も含めて強化していきたいと考えている。
委員	子育て世代の転出が多いというのは、熊谷市の特性と言えるのか。大都市の周辺都市においては、熊谷市に限らず子育て世代の転出は多いと思う。「生かす」というのは、「プラス」という意味なので、子育て世代の転出が多いことを生かすというのはおかしいと思う。本市の特性とするならば、P30 の「地域経済循環率が高い」ということで、熊谷市として経済的な自立性が高いということになると思う。P80 の「スポーツコミッション」についても、ラグビーワールドカップもあり、全国

	<p>的に熊谷市はスポーツの町だという印象を与えたと思うので、そういうものを特性として生かす流れの方が計画としてはアピールになるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>P28 に熊谷の宝についてのアンケート結果が記載されているが、No.1 から 7 がまさに熊谷市の特性だと思う。市の根本的な見直しをする中でこのアンケート結果を利用すれば、熊谷市の魅力を発信出来るのではないかと。</p>
委員長	<p>事務局としては、全体として人口が減少しているなのでそこに有効的な施策はどれかという意味で説明をしていると思うが、特性の考え方としては他の委員さんが理解されている考え方でいいと思う。</p>
委員	<p>P58 第 2 期の目指すべき方向性の現状と課題の中に、恐らく特性と、それに基づいてやってきた中での課題、その課題を解決するために第 2 期が出来ると思うので、特性としてはここに書いてあるので、見せ方・見え方がわかりづらいただと思う。</p>
委員 事務局	<p>P72 1-1-7 地域中核企業支援について、中核企業の選定方法等はあるのか。</p> <p>平成 28 年に地域未来投資促進法が出来て、地域を元気にするのは地域の企業であり、地域内の他の周辺の企業と取引がある企業、地域で中心となっている企業をまず元気にして、そこから地元の中小企業に仕事がまわるという考え方である。実際は市が選ぶのではなく国が指定するかたちであり、熊谷市では 2 つの企業が国から指定を受けており、1 つが「株式会社 JST」でモーターのシャフトを作っている会社と、もう 1 つが「ポーライト株式会社」で、同じくモーター関係を作っている会社である。化粧品会社の「株式会社アルビオン」も申請過程であるが、国から地域の中核企業という指定を受けている。国では中小企業に設備投資をして、より生産性の高い機械に買い換えてもらう等色々な支援策を設けているので、熊谷市でも国の支援策を得るには市の独自計画を策定し、中小企業に対して色々な支援を行っている状況である。地元の企業が元気になることにより、地域で働ける場を確保出来るので、若い人が外の企業に行かないで熊谷市内で働いてもらい、外から来た人も熊谷市で働く場があることを知ってもらう、という構図が得られる。第 1 期の途中から国の法律が出来たので、それに合わせて市で独自の計画を作り、第 2 期に入れさせていただいた。</p>
委員	<p>国が指定された 2 つの会社は、BCP はやっているのか。</p>
事務局	<p>そこまでは分からない。</p>
委員	<p>災害時は BCP が一番問題になるので、会社として推薦される以上は BCP を常に意識することが重要だと思う。その点を熊谷市としてどこまで意見出来るか分からないが、意識を変えた方がいいのではないかと。</p>
委員 事務局	<p>人口ビジョンで子育て支援を中心的な施策として出しているが、熊谷市は周産期医療がなく、合計特殊出生率は増えるどころか減る一方である。他の都市に頼っているのではないかと。</p> <p>努力はしているが、3 歳児・4 歳児のお子さんを持つ世帯の転出が増えていることや、他市で子どもを産んで帰ってくるというデータが出ている。現状継続だが、</p>

委員	<p>企業誘致の条例の中で医療機関や介護機関も対象にしている。</p> <p>現実には改善されているのではなく、小さいお子さんの医療が減少している。行政は地域の医療についてどのように考えて、どのような方々と意見交換をしているのか。</p>
委員長	<p>医療機関には随時お願いしている。周産期医療については、具体的な話があれば検討の余地のある話だと思うが、産科・小児科の医師も少なく、中々難しいというのが現状である。</p>
委員	<p>具体的にどのような行動を起こしているのか。</p>
委員長	<p>定期的に医師会と市長が会う機会がある。</p>
事務局	<p>企業誘致の範囲に病院を拡大したことは医師会に説明している。地域未来投資促進法や生産性向上の中小企業に病院も入っており、病院を新しく作ると固定資産税関係、設備投資に関する減免措置がある。この説明をさせていただき、実際に病床拡大をしているところがある。市内病院にも、周産期科や婦人科を作っただけのようにお願いをしているところである。</p>
委員	<p>第1・2・3子を産み育てるにあたり、熊谷市内に産婦人科がとても少なく、深谷の産婦人科に流れている現状がある。熊谷市内で出産出来る場所の充実、未熟児も受け入れられる医療機関の充実が必要である。熊谷市で出産が出来れば安心して子育てしたいと思う若者が増えるのではないか。危機感を感じている母親が多いのが現状である。</p>
事務局	<p>特性についてウィークポイントを中心に話したが、P58には課題だけでなく特性の部分も記載しているので、特性・課題・現状を分けた表記へ変更を考えている。</p>
委員長	<p>表記の仕方について、修正等を検討していただきたい。</p> <p>(3) 今後の予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料に基づいて説明が行われた。 ・意見・質問は以下の通り。
委員長	<p>疑問点・意見等は電話やFAXで問い合わせをお願いします。</p>
<p>以上</p>	